

データを読み解く

―葬式についての消費者の理解〈中〉

2014年1月に公表された一般財団法人日本消費者協会の第10回「葬儀についてのアンケート調査」(以下、「消費者協会調査」、「本調査」と略す)の分析第2弾。

今号では葬儀費用の実態について経産省の「ライフエンディング・ステージ報告書」、「特定サービス産業動態調査」等を参照しながら葬儀費用等の実態を分析する。
(碑文谷 創)

④葬儀費用の実態

- (1) 葬儀で実際にかかった費用
- (2) 内容・サービスに対する費用の妥当性
- (3) 家族の葬儀をして困ったこと

〈以下、次号〉

④ 葬儀費用の実態

〈お断り〉

以下、「Q」は本調査の調査票の文章(SQは詳細な問い)であることを示します。「回答」は本調査の

回答を日本消費者協会がまとめたもの。

【分析】は著者による分析。なお引用中「経産省調査」とあるのは、

2011年に経済産業省(経産省)が実施した「安心と信頼のある『ライフエンディング・ステージ』の創出に向けて 調査」を意味します。

日本消費者協会の過去調査と比較するために、第6回の1999(平成11)年調査のデータを参考にす

ことがあります。それは「99年調査」と表記します。本調査では前回の10年調査との比較を行っていますが、調査の誤差範囲での相違に意味づけるといふ無理が行われています。葬

式の変化は、3年でもドラスティックに進んでいるものの、アンケート

調査に回答する人が身近な葬式体験をするのは、平均すれば約10年に1件程度です。そこで、14年前の調査と比較して動きを見てみたいと思います。

Qの数字はあくまで調査票の数字です。Qの数字が飛んでいるのはそ

の質問の紹介を省略していることを示します。

(1) 葬儀で実際に かかった費用

SQ11 葬儀費用についてお聞きします。各項目に金額を記入してください。

詳細が不明の場合は、合計金額だけでも結構です。

「喪主ではないのでわからない」ということもあるかと思いますが、差支えがなければ喪主様にお尋ねいただいでご回答いただけるようお願いいたします。

A 通夜からの飲食接待費 円

B 寺院への費用（お経料・戒名料・お布施） 円

C 葬儀一式費用（※） 円

D A・B・Cの合計金額 円

※葬儀一式費用には次の項目を含みます。

（病院からの搬送・安置・飾り付け
・会場祭壇設営・会葬御礼・霊柩車
・ハイヤー・火葬費用・斎場使用料）

【回答】

葬儀費用については、葬儀の規模や会葬者の人数など、個々の詳細を把握したうえでのものではない。ま

図1 飲食接待費

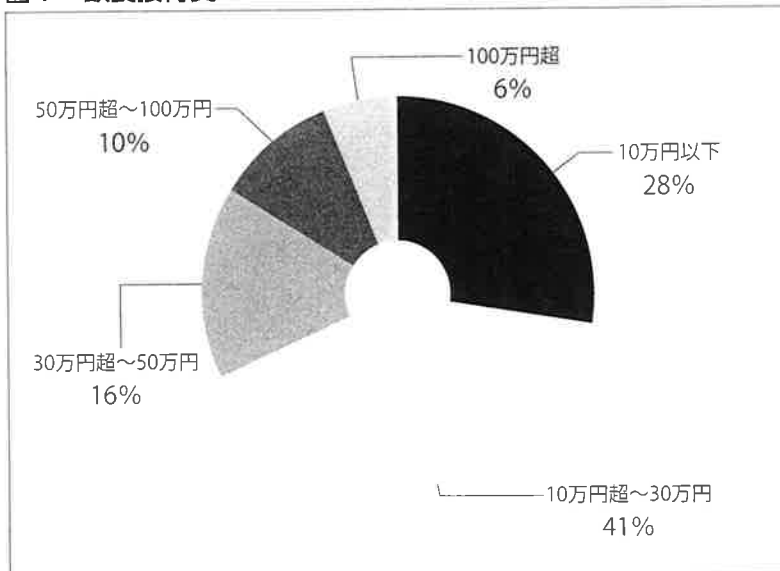
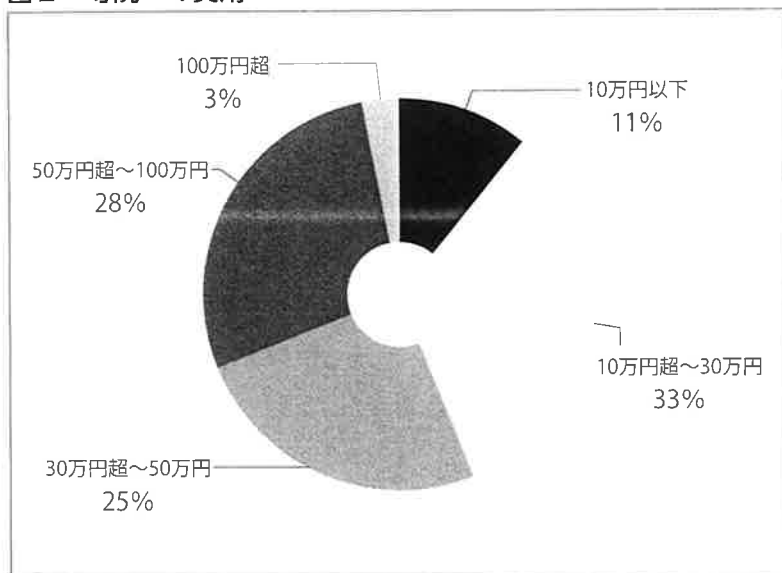


図2 寺院への費用



た、地域ごとの回答者数が少なく、地域の特性を反映しているとは言いがたい。限られたデータでの単純な平均金額であるため、参考値として見ていただきたい。

A 通夜からの飲食接待費

全体の平均額は、33万9千円だが、7千円という少額から、最高額は250万円まであり、飲食接待にかかる費用には幅がある。ちなみに少額ですんだのは、老人ホームで葬儀を

執り行ったケースである。

第9回での平均額は45万5千円で、1万5千円～450万円までの幅があった。（図1）

B 寺院への費用

全体の平均額は、44万6千円だが、1万円から400万円までと、寺院への支払った費用にも大きな幅がある。寺院との関係は、菩提寺であるか否かなど、要因はあるが、今回最高額の支払額を記入した人は「費用

の決め方」の項目で、「一切を葬儀社に任せ」と回答している。第9回での平均額は51万4千円で、1万円～188万円までの幅であった。（図2）

C 葬儀一式費用

3本の支払いのうち、最も高額になるのが、葬儀社などへの支払いである。その支払い額では5万円～500万円までの幅がある。全体の平均額としては122万2

図3 葬儀一式費用

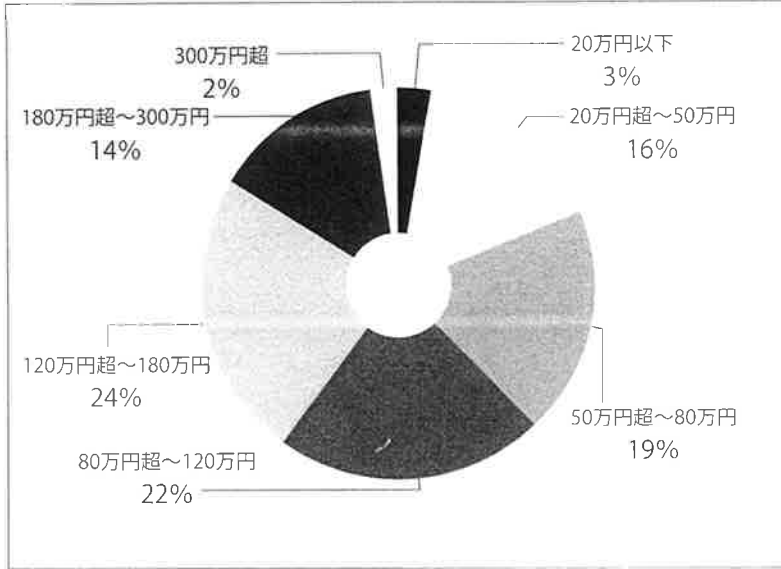
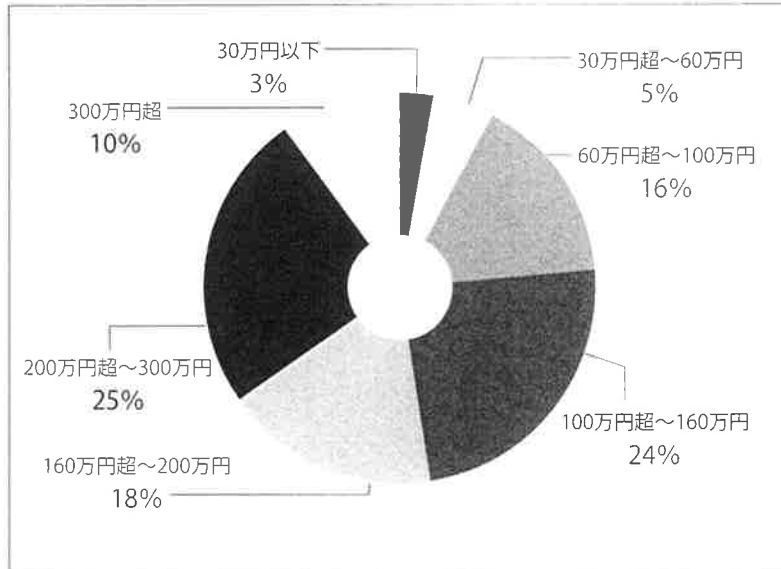


図4 葬儀費用の合計



千円である。

「葬儀一式費用」を記入した218名中、50万円以下が41名(21.8名中18.8%)、50万1円から100万円以下が78名(21.8名中の35.8%)、100万1円～160万円以下が55名(21.8名中25.2%)、160万1円～200万円以下が21名(21.8名中9.6%)、それ以上が23名(21.8名中10.6%)となっている。

第9回の平均額は、126万7千

円であり、12万円～500万円まで幅広い金額になっている。(図3)

D 葬儀費用の合計

A・B・Cの3項目への記入よりもDの合計金額への回答率が高いものの、64.2%であり、この金額をして一般的に葬儀費用はこれだけかかる、とは言えない。

全国で見た平均額は188万9千円だが、10万円から1千万円と幅広い金額になっていた。

この合計金額は、調査を経るごとに低くなってきており、葬儀内容の多様化が影響している結果であると思われる。(図4)

【分析】

●99年～10年～14年の変化

葬儀費用の実態については、回答の中で日本消費者協会が力説しているように、「平均額」は「このくらいかかる」と見る数字ではなく、このデータから相当幅の広い選択が実

際には行われている、ことを示すものになっています。

実際には告別式を行わない(あるいは火葬炉の前でのみ告別する)直葬から社葬に近い大型葬まで入っているものです。

遺された関係者の経済状況、死者および遺された人々の想いや考え方による多様な葬儀が行われていることが見てとれます。

また、全体から言えば、葬儀の小聖化、私事化にともない、葬儀費用は低下傾向にあります。葬儀の参列者が減少傾向にあるので、自然に葬儀費用は低下傾向にあります。

第9回調査は2010年に実施されています。10年調査と4年後の2014年の今回の調査と平均額と比較してみます。

14年調査は「A通夜からの飲食接待費」が11万6千円減少して33万9千円に(25.1%減)なっています。半数が20万円以下となっています。

「B寺院への費用」は平均額が6万8千円減の44万6千円に(13.2%減)。半数が40万円以下となっています。

「C葬儀一式費用」は、平均額が4万5千円減の122万2千円に(3.5%減)。半数が100万円以下です。

「D葬儀費用の合計」は、11万円減

表5 葬儀費用の概要 (2014年日本消費者協会)

	A 飲食接待費	B 寺院への費用	C 葬儀一式費用	D 葬儀費用の合計	A+B+C
最低額	7,000円	10,000円	50,000円	100,000円	67,000円
平均額	339,000円	446,000円	1,222,000円	1,889,000円	2,007,000円
最高額	2,500,000円	4,000,000円	5,000,000円	10,000,000円	11,500,000円
※最多価格	250,000円	150,000円	950,000円	2,500,000円	1,350,000円

(注) 最多価格帯では価格帯の中間値を仮定した。(編集部)

表6 葬儀費用の概要 (1999年日本消費者協会)

	A 飲食接待費	B 寺院への費用	C 葬儀一式費用	D 葬儀費用の合計	A+B+C
最低額	10,000円	30,000円	50,000円	110,000円	90,000円
平均額	454,000円	498,000円	1,309,000円	2,287,000円	2,261,000円
最高額	3,500,000円	5,000,000円	10,000,000円	12,000,000円	18,500,000円
※最多価格	150,000円	450,000円	1,500,000円	1,750,000円	2,100,000円

表7 葬儀費用の概要 (2011年経産省)

	①飲食・返礼品	②宗教家へのお礼	※③葬儀費用(④-①)	④葬儀費用(②を除く)	⑤: ①+②+③	⑥香典の額	※⑥自己負担額
最低値	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0
平均値	650,000円	441,000円	1,243,000円	1,893,000円	2,334,000円	1,197,000円	1,137,000
最大値	1,000,000円	2,000,000円	3,000,000円	4,000,000円	6,000,000円	2,500,000円	3,500,000
中央値	500,000円	300,000円	1,100,000円	1,600,000円	1,900,000円	1,000,000円	900,000

表8 各調査の平均額の比較

	(1)飲食接待費	(2)葬儀一式費用	(3)宗教者へのお礼	(1)+(2)+(3)
2014年消費者協会	339,000円	1,222,000円	446,000円	2,007,000円
2010年消費者協会	455,000円	1,267,000円	514,000円	2,236,000円
1999年消費者協会	454,000円	1,309,000円	498,000円	2,261,000円
2011年経産省	650,000円	1,243,000円	441,000円	2,334,000円

※①飲食接待費は経産省調査の場合は「飲食・返礼品」、返礼品は消費者協会では「葬儀一式費用」に含まれる。

・5%減)。半数が160万円以下(おそらく150万円以下)になっています。またA+B+Cで求められる金額の合計は、14年は200万7千円で、10年の223万6千円より22万9千円減。率にして10・2%減となっています。(表5)

14年調査を1999年に行われた第6回調査(表6)と比較すると、「A通夜からの飲食接待費」は11万5千円減、「B寺院への費用」5万2千円減、「C葬儀一式費用」は8万7千円減、「D葬儀費用の合計」は39万8千円減となっています。

またA+B+Cで求められる金額の合計は99年の226万1千円の25万4千円減となっています。

99年と10年では費用はあまり動いていませんが、14年で費用の低下が明確になりました。

葬祭業の現場にいる方は、実際のほうが変化が急だという印象をもっているのではないのでしょうか。それはこの調査データの特徴が関係しています。それは「過去3カ年」の葬儀体験者に対しての調査だからです。

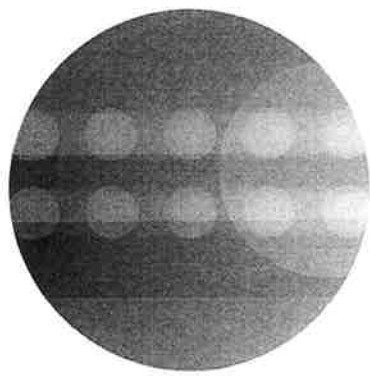
首都圏で言えば、12年段階で最も多いタイプの葬儀は会葬者50〜60人程度であったのが、14年現在である

う印象があります。地方においても、小型化は目に見えて進行しているが、どちらかと言えば多様化が進行しているように思えます。相変わらず会葬者を多く集める葬儀もありますが、会葬者30〜40人、いやもっと少数の葬儀が増えてきている印象があります。

また、直葬等の極めて小型の葬儀を狙って小規模事業者が営業しているため、既存の中規模以上の事業者は小規模葬儀の取扱率があまり増えていない、ということも影響しているようです。

●自己負担額を考慮する

ちなみに2011(平成23)年の震災直前に実施された経産省「ライフエンディング・ステージ」に関する調査を見ておきましょう。(表7)この調査では、「香典の額」も調



査しており、遺族の実際の負担額がわかるようになっていきます。

葬儀費用の平均値では233万4千円になっていますが、自己負担額は約半額の113万7千円、最多価格で言えば、総額が190万円、自己負担額が90万円となっています。香典の平均額から平均会葬者数を予測すると110〜130人程度と想われます。

しかし、バブル景気までは宗教者へのお札を除いた費用のほとんどが香典で賄われていたことが多かった時代環境が大きく変化していることが見てとれます。

小型化＝会葬者数の少数化＝香典収入減と結びつき、結果として遺族関係者の費用負担は大きくなっているのが現状です。

依然として葬儀の小型化は加速状態にあります。一つの目安として形はさまざまですが、自己負担額を50万円程度に抑えるという考え方もあります。また、葬儀保険金の多くが100万円となっているのは、香典で不足しかねない自己負担分をカバーするためです。

自己負担額がいくらまでか、は遺族の経済状態や死者本人の生前の備えで変化します。

生活保護の葬祭扶助は約20万円

す。これも参考になるでしょう。

実際に生活をしていて突然の30万円の出費を迫られ、驚く遺族関係者も少なくないでしょう。

葬祭事業者としては遺族関係者の生活状況を考慮し、自己負担額0円、20万円、50万円、80万円、100万円という目安をしっかりと対応する必要性がこれからはますます高まってくるでしょう。

このデータも大きな幅があることがわかります。最低値の0円は回答上の問題で、合計額としても15〜20万円であると想定されます。ここまですべて幅が大きいと、選択する側の考え方の違いになるでしょう。

●価格ランクだけではなく、コンセプトの違いによる多様なプランの提示の必要性

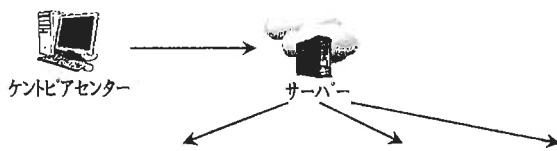
費用比較というのはそれぞれの考え方によって変わり、葬祭事業者もそれに対応した多様なプランを用意する時代になった、ということでしょう。

そして異なるプランには異なるコンセプトがあるということで、プランの特徴と長所、短所を明確に提示することが必要となるでしょう。

今、盛んに「安さ」だけを強調する提示が一部で流行していますが、

【クラウド】サイネージ・トピアシステム

2014年春
新商品



祭壇



思い出コーナー



ホール入口

コンテンツ72パターン付き

1. 当社が作成したコンテンツ(写真・スライド・映像等)をお客様のPCでご確認頂きます。
2. 当社よりコンテンツを専用サーバーへ転送。
3. お客様は機器の電源を入れて頂くだけ。自動的に再生を行います。

【価格表】※プレーヤーは設置地域により価格変動しますので、詳細はお見積り致します。

コンテンツ作成費(税別)	
①写真(静止画)5コンテンツまで ※遺影写真作成は除きます	4,480円
②追加 1コンテンツ	980円
③思い出スライド作成(写真5枚)	980円
④思い出映像作成	4,980円

メディアプレーヤー(税別)	
1. プレーヤーセット	129,200円
2. 取付/設置費(交通費別)	50,000円+交通費

月額使用料/台	@2,500円/月
---------	-----------

葬祭システムの企画・開発会社 / クラウド運営会社 〒113-0022東京都文京区千駄木3-46-2 REC千駄木ビル4F
ケントピア株式会社 TEL.03-3822-4721(代) FAX03-3822-9641
 Mail: info@kentopia.co.jp http://www.kentopia.co.jp/